【様々な予兆になるべく早期から対応】

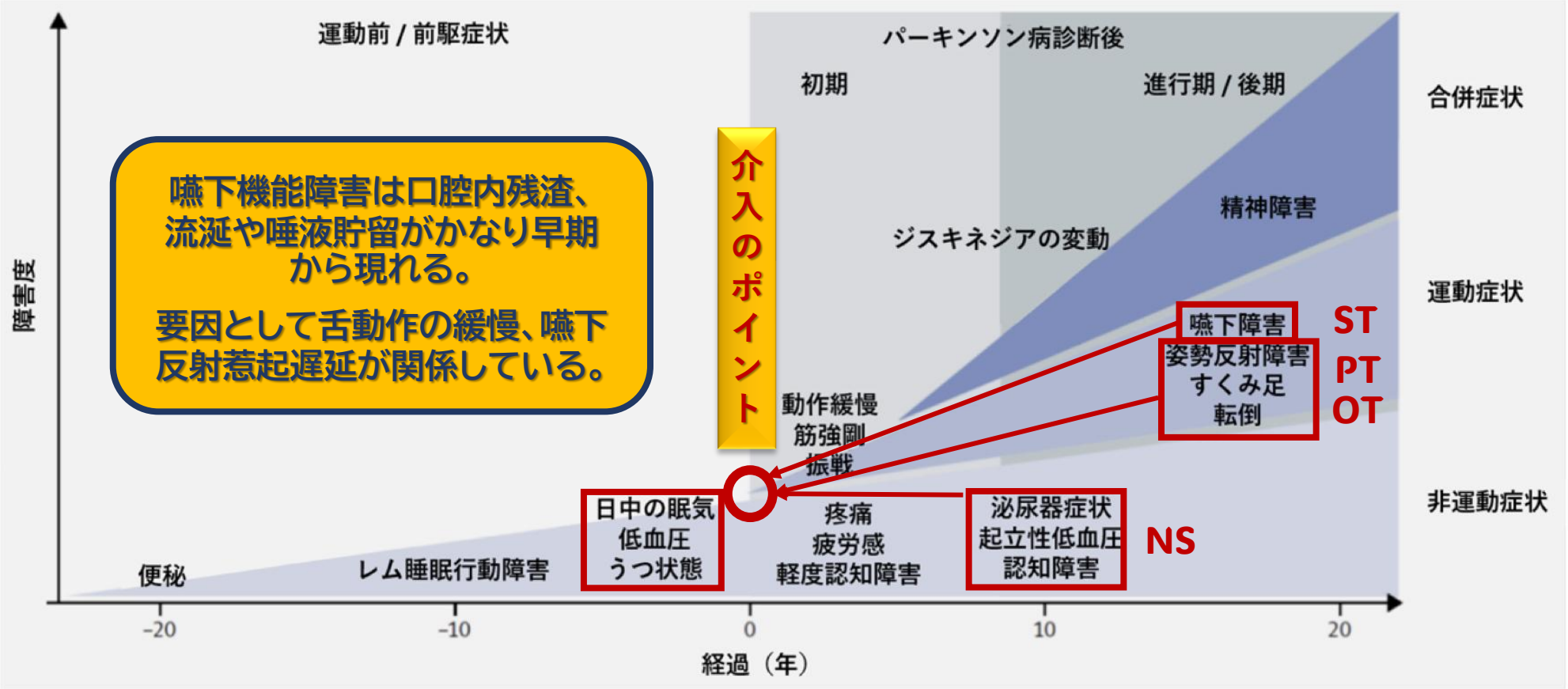

図1　パーキンソン病における運動・非運動症状，合併症の経過

自律神経に関連する症状は，診断よりかなり以前から出現し，診断後は運動・非運動症状も重複して出現し徐々に進行する．
医療/外科的治療，リハビリテーション治療の選択肢はその都度選択肢の検討に迫られる．
出典）Kalia LV, Lang AE. Parkinson’s disease. Lancet. 2015；386：869-912より改変